

史

窓

第五十八号

史学科創設五十周年記念特集号

京都女子大学史学会

二〇〇一・二

ISSN 0386-8931

二〇〇一年五月〇日
発行 印刷



学園創立九十周年
史学科創設五十周年
記念特集号

第58号

2001・2

京都女子大学史学会

目 次

史学科の半世紀——五十周年を迎えて 常 松 洋 (i)

論 文

- 石川丈山研究余話 山 本 四 郎 (1)
後漢書列伝六十一朱儁伝訳稿 犬 野 直 祯 (15)
ヘーラクレイツにおける一者 永 井 康 視 (25)
阿衡の紛議——上皇と摂政・関白—— 灑 浪 貞 子 (37)
行旅難渋者救済システムについて——法的整備を中心にして—— 柴 田 純 (53)
幕末・明治初年における地主の存在状況 中 山 清 (67)
日本人会ネットワーク——北米日本人会の組織と活動を中心に—— 坂 口 満 宏 (83)
礼忠簡と徐宗簡研究の展開——居延新簡の発見を契機として—— 永 田 英 正 (97)
元代浙西地方の税糧管轄と海運との関係について 植 松 正 (111)
元末の海運と劉仁本——元朝滅亡前夜の江浙沿海事情—— 檀 上 寛 (119)
一二世紀初頭ハラブの住民指導者たち 谷 口 淳 一 (131)
キャロライン王妃事件をどうとらえるか
　　——イギリス王室と民衆・世論—— 古 賀 秀 男 (143)
アメリカのヴィクトリアニズムと中産階級 常 松 洋 (159)
ロシアの人口移動（十八—二十世紀）とその特色 中 村 泰 三 (171)
皇親と賜姓皇親 吉 住 恭 子 (181)
唐代の积糀について 中 野 昌 代 (197)
『新撰姓氏録』における姓意識と渡来系氏族 菅 澤 庸 子 (209)
播磨国越部下莊相論に関する一考察
　　——元亨三年後醍醐天皇安堵について—— 岸 本 香 織 (221)
天王寺妙嚴院御比丘尼御所——中世大坂の寺院史についての試み—— 木 原 弘 美 (233)
菩提山本願信円の夢 大 原 真 弓 (243)
文化・文政期高松藩における砂糖積出状況
　　——大内郡引田村を事例として—— 宇佐美 尚 穂 (257)

- 幕末期萩藩における給領取立農兵——寄組浦家を事例として—— 上田純子 (269)
初代上海領事品川忠道に関する一考察……………松本郁美 (281)
『佳人之奇遇』を読む——小説と現実の「時差」—— 高井多佳子 (293)
前漢文帝期の政治における一考察……………上野有美子 (307)
北魏末期の爾朱榮……………小島典子 (317)
唐玄宗「御製御書」闕特勤碑文考
——唐・突厥・吐蕃をめぐる外交関係の推移—— 菅沼愛語 (329)
広西省貴県における団練の形成と郷紳……………吉野香 (341)

史料紹介

- 後桜町女帝年譜稿……………所京子 (353)
尚順書翰——鳩居堂熊谷信吉宛—— 竹村房子 (365)
-
- 彙報 (379)

表紙の題字は故那波利貞先生の筆。『史窓』
が活版印刷になり第5・6合併号を発行した
とき（昭和29年）御書きいただいたものです。

論

文

一〇〇〇年度 学会行事

新入生歓迎会

四月六日(木)

新入生オリエンテーション

新入生との初めてのご対面。二回生・三回生など私たちも学会委員としてはまだ新入生並みでした。一生の目にも甚だ頼りない先輩と映ったことでしょう。既に任期を終えられた四回生の先輩の方にもご助力いただきながら準備を進めました。そして当日。四回生の先輩方に見守られつつ、新入生歓迎会は始まりました。新米委員長の拙い挨拶に引き続いだ委員それぞれの自己紹介。人前に出で話すことに未だ慣れていない挨拶は新入生の皆さんにはひどく不自然な日本語に聞こえたことと思ひます。自己紹介、新歓バスターのお知らせなどを伝えた後は、毎年恒例の質問タイムへと突入です。

今年度の一回生からカリキュラムが大幅に変更されたため、毎年多様を極める質問は今年は更に難しいものとなり、一年・二年先輩の私たちも右往左往する有り様でした。私たちができる限り質問に答えると教室内を走り回りましたが、大変的を得ない返答になってしまったと思ひます。この場をお借りして、深くお詫びいたしました。

春の新歓バスター

四月一四日(金)

新入生歓迎バスター by 嵐山

学会委員にとっても一回生にとっても春のメインイベントである、この「新歓バスター」。前日までに、各々が役割分担して準備をすませました。当日の昼休み、J420の教室において、先生方を交えての昼食会を開きました。新入生一人一人の名前を名簿で確認しながら、お弁当とお茶を配ります。単純な作業に思えますが、実はかなり大変で

す。私たちがあわてふためいていると、入口には長い長い列ができてしましました。それをなんとか乗り切ると、時間を見計らって瀧浪先生に、天龍寺そして嵐山の解説と見所を説明して頂きました。

次に毎年大変なバスへの移動。今年は、バスの停車位置がJ館の前という交通量の多い場所へ移動しました。例年よりも乗車を急がなければなりませんでした。やはり手間取りましたが、バス三台はなんとか天龍寺へと出発しました。大学から嵐山までは約40分程かかります。バスの中では早速、毎年恒例の自己紹介が始まりました。出身地や趣味などお互いの共通点を見つけては盛り上がり、どんどん友達の方にもご助力いただきながら準備を進めました。

そして当日。四回生の先輩方に見守られつつ、新入生歓迎会は始まりました。新米委員長の拙い挨拶に引き続いだ委員それぞれの自己紹介。人前に出で話すことに未だ慣れていない挨拶は新入生の皆さんにはひどく不自然な日本語に聞こえたことと思ひます。自己紹介、新歓バスターのお知らせなどを伝えた後は、毎年恒例の質問タイムへと突入です。

今年度の一回生からカリキュラムが大幅に変更されたため、毎年多様を極める質問は今年は更に難しいものとなり、一年・二年先輩の私たちも右往左往する有り様でした。私たちができる限り質問に答えると教室内を走り回りましたが、大変的を得ない返答になってしまったと思ひます。この場をお借りして、深くお詫びいたしました。

天龍寺は桜やつづじが満開で色々な景色

に、すっかり心を奪われてしまいました。また、そ

よ風と共に桜の花びらが頭の上に積もり、ピンクの冠をかぶついているようでした。寺院を拝観した後

は、集合時間まで嵐山散策。それぞれ自由に嵐山を

満喫していました。私たちも、もみじや抹茶のソフ

トクリームを口いっぱいにほおばり、渡月橋や桂川

を見ながらのんびりと過ごしました。

楽しいひとときはすぐに終わってしまいました。

帰りの点呼は、私たちの呼びかけに急いで戻つてきてくれた皆さんのおかげで、いつもより早く終えることができました。帰りのバスの中は、皆ぐっすり眠つて静かな空間でした。

帰つてくることができました。午後五時半過ぎ、全員無事

に帰つてくることができました。平安觀光の田村さ

ん、今回もお世話をなりました。

当日の昼休み、J420の教室において、先生方を交えての昼食会を開きました。新入生一人一人の名前を名簿で確認しながら、お弁当とお茶を配ります。単純な作業に思えますが、実はかなり大変で

卒業論文中間発表

日本史専攻 一〇月一〇日(火)～一三日(金)

東洋史専攻

一〇月一七日(火)～一九日(木)

西洋史専攻

一〇月一二日(木)～一三日(金)

大学院文学研究科史学専攻 博士後期課程開設記念特別講演会

歴史から学ぶ「二一世紀の歴史学に向けて」

一月一七日(金)

歴史学に何が出来るか

大阪大学教授 川北 稔氏

歴史を語る「物」—鎖国直前の日中関係を探る—

大阪大学教授 皇學館大学学長 大庭 優氏

歴史を語る「物」—鎖国直前の日中関係を探る—

博士後期課程開設記念特別講演会

歴史を語る「物」—鎖国直前の日中関係を探る—

一回生親睦会

一二月八日(金)

一回生と先生方の交流をはかりつつ、来年二回生となるに当たつて専攻に分かれるための説明会を兼ねた親睦会が昼休みに行われました。先生方による各攻の説明の後は質問会となりましたが、既に専攻を決めている人が多いのか、或いは尋ね難かったのか、質問はほとんど出ませんでした。

短い時間でしたが、充実したひとときとなりました。

卒業生予餞会

一二月二〇日(水)

卒業論文の締め切り日でもあったこの日、午後六時より祇園のかがり火にて毎年恒例の予餞会が行われました。卒業生と先生方が一同に会し、和やかな雰囲気で進行しました。卒業論文という最後にして最大の課題を無事終えることができた先輩方の晴々とした笑顔が印象的でした。

春季公開講座

五月二六日(金)

ロシアの人口移動(一八世紀と二〇世紀)とその特

本学教授 中村 泰三氏

木村 友美	御館の乱——上杉家家督相続争いの背景
景一	日本古代史料にみる南島の一考察
清さつき	幕府内における北条政子の立場
久保暢子	久保田敬子 灵山における女人禁制の成立事由——トラン尼伝承を通して——
久保田敬子	戦国日本の動物觀の移りかわり——脅威
窪田瑞恵	近世庶民の旅の様子
小島亜紀子	軍國主義と天皇制——陸軍将校生徒の教育から生きがいへ——
児島 浩子	伊東甲子太郎の志——御陵衛士の勤王思想
小島真奈美	最澄について
小西波瑠佳	室町期細川氏の發展過程について
小西むづみ	乃木希典と殉死論——明治における乃木希典——
櫻井真理子	戦国時代の政略的養子
佐々木めぐみ	吉備真備の入唐に関する考察
柴田葉子	第五福龍丸事件——焼津はどうして沈黙していたのか——
杉山まり子	御堂閑白記からみる藤原道長の出勤状況
坂口麗乃	文明開化と牛肉食
坂田純	日本の食犬と、その消滅
小林瑞穂	海軍水路部——「自力ヲ以テ」海に取り組んだ歴史——
坂口麗乃	文明開化と牛肉食
坂田純	日本の食犬と、その消滅
櫻井真理子	戦国時代の政略的養子
佐々木めぐみ	吉備真備の入唐に関する考察
柴田葉子	第五福龍丸事件——焼津はどうして沈黙していたのか——
杉山まり子	御堂閑白記からみる藤原道長の出勤状況
鈴木香織	人力車考——文明開化を走る「傳」た
鈴木美緒	おもやかは語る——技術の進歩を通してみるおもやか——
瀧本美奈	織田信長と堺
田口志乃	劇場のある風景——企業メセナをめぐつて——
竹内鈴華	京町家とまちづくり
竹平留美香	国の祭礼による民衆支配——祇園御靈会を中心にして——
辻川野乃子	戦後理論

戸田香代	『雨夜の伽草』にみる西條まつり
中川裕美子	「お菓子」について——お菓子の変動
中島真希	河内源氏の成立についての一考察
中林美保	慶長・元和期の築城について
西田直子	桓武朝政治の一考察
西川紀子	仮名文字から見た日琉の交流
西田涼子	陰陽寮と天文諸相について
野澤幸代	御靈会の成立について——疫病対策の変遷——
野本景子	江戸時代における人參文化
野澤幸代	江戸後期に於ける江北京極氏について
野本景子	——応仁・文明の乱前後を中心にして——
橋村めぐみ	橋村めぐみ
林恭子	猿楽能の変遷と発展における一考察
林恭子	猿楽能の変遷と発展における一考察
久木紅美	江戸時代の朝鮮通信使——朝鮮人街道を中心として——
久木紅美	江戸時代の朝鮮通信使——朝鮮人街道を中心として——
平野亞弥	平清盛と後白河院
廣野好美	津山藩とその学問——藩校を中心として——
廣畑賀絵	齊明天皇と石の都・飛鳥
樋渡さとみ	保科正之一江戸幕府の太平の世を演出する——
福田衣里子	沖田総司——その一生——
福呂直子	唐衣の成立について
藤沼典子	土鈴その変遷と庶民たちの想い——
古橋千晴	来日外国人問題——外国人入国者の増加と来日外国人犯罪の増加——
堀貴美子	家訓からみる鴻池の経営方針

戸田香代	大伴坂上郎女にみる「家刀自」立場
増田敦子	明治期の西陣織の発展
松木みゆき	近世公家の家職
松田香里	新潟の明治維新
理恵	龍安寺の石庭について
三島容子	神聖とみられた子どもについて
三橋瑞穂	鹿鳴館——ダンスの政治的・文化的意義
光山華代	上方落語冬の時代
美馬由起子	阿波藩の御家騒動——益田豊後事件——
宮内睦美	桂宮淑子内親王について——宮家を相続した内親王——
六車美保	上州島村における蚕種業の発展過程
森下博美	竈の構築方法とその地域性——古墳時代の讃岐平野を一例として——
村上博美	桂宮淑子内親王について——宮家を相続した内親王——
宮田有美子	上州島村における蚕種業の発展過程
森下博美	竈の構築方法とその地域性——古墳時代の讃岐平野を一例として——
森下博美	桂宮淑子内親王について——宮家を相続した内親王——
森下博美	京都府における明治期图画教育——毛筆画教育の一考察——
森下博美	京都府における明治期图画教育——毛筆画教育の一考察——
森下博美	近江商人升屋利兵衛——創業から自立まで——
森下博美	近江商人升屋利兵衛——創業から自立まで——
柳浦早紀	清水寺の勧進と五条橋
安井絵美	ダグラス・マッカーサー——解放者という名の征服者——
矢田由美子	戦後日本における少年犯罪——近年の犯罪を保健室という観点から——
矢野千代	天保改革における出版統制
矢野千代	天保改革における出版統制
簸中直子	鳥取県に関わった老農——林遠里・中井太一郎を事例に——
山川貴美	鉄砲の伝播とその普及について
山崎いづみ	修学旅行はなぜ続いたのか

吉野加寿子	西洋史専攻	吉野加寿子	西洋史専攻
渡邊 容子	唐代前期の国家権力と宗教勢力について	吉野加寿子	置過程に見るチベット史——各裁判所判例集からの考察——
坂田 智美	『清明集』から見た女性の財産権について	坂田 智美	カーリミー商人と諸王朝の関係——マムルーク朝・ラスール朝を中心に——
木場 千晶	唐王朝からみた日本	木場 千晶	イギリス植民地支配下における、イングランド社会とカーリスト制度の変容について
小閑 円	タイにおける華僑社会の形成と同化について	小閑 円	幸愛
吉川 景子	蘇我氏の本拠地について	吉川 景子	山本敦子
吉田 千草	蘇我氏の本拠地について	吉田 千草	山本敦子
輪違 貴子	女子教育にみる漢字の使用——「女大生」より考える——	輪違 貴子	山本敦子
幸枝 金子みすゞ——自由への翼——	推古天皇の遺言——その過程と真意——	幸枝 金子みすゞ——自由への翼——	山本敦子
佐藤さやか	生殖の自己決定権をめぐる闘い——堕胎罪の社会的位置付けについての考察——	佐藤さやか	山本敦子
山下 敦子	吉田松陰——彼が後世に残したもの——町火消制創設までの過程	山下 敦子	吉川景子
池川 敦子	蒲寿庚の生涯	池川 敦子	吉田幸枝
一木 良良	漢代の食文化	一木 良良	吉田幸枝
綾田 美奈子	ジャワ島のイスラム化とワリ・サンガ	綾田 美奈子	吉田幸枝
井本 敦子	唐代の官僚構成と科挙——唐初から開元期までを中心として——	井本 敦子	吉田幸枝
岩崎 由佳	『内訓』に見る徐皇后の思想とその行動	岩崎 由佳	吉田幸枝
大川 陽子	陽明学と時代の憂い	大川 陽子	吉田幸枝
加藤 千晶	明代モンゴルにおける板升の意義	加藤 千晶	吉田幸枝
神尾ゆかり	満洲国建国前夜の中国人の動向——九·一八事変以後を中心にして——	神尾ゆかり	吉田幸枝
川井江美子	宰相対準と澶淵の盟	川井江美子	吉田幸枝
川口布美子	改革・開放時代の貿易と対米政策	川口布美子	吉田幸枝
川瀬 晓子	隋朝四十年——皇帝と官僚の駆け引きを通して——	川瀬 晓子	吉田幸枝
川野 妙	陳天華と自己犠牲の精神	川野 妙	吉田幸枝
川端 友美	香港における「報道の自由」	川端 友美	吉田幸枝
木岡さやか	明末の日本觀と海防策——寧波爭奪事件から海禁解除に至るまで——	木岡さやか	吉田幸枝
イギリス植民地支配下における、イングランド社会とカーリスト制度の変容について	イギリス植民地支配下における、イングランド社会とカーリスト制度の変容について	イギリス植民地支配下における、イングランド社会とカーリスト制度の変容について	吉田幸枝
森本 亜希	現代中國の婚姻問題	森本 亜希	吉田幸枝
横内 美穂	宮本 真帆	横内 美穂	吉田幸枝
安井はなよ	林彪事件からみた文化大革命	安井はなよ	吉田幸枝
宮崎 美幸	道法思想の展開——『韓非子』主道・揚權・解老・喻老四篇を中心にして——	宮崎 美幸	吉田幸枝
峰浦 潤	古代中國の刑罰思想——特に漢代武帝期を中心として——	峰浦 潤	吉田幸枝
丸尾日登美	二二八事件における台湾知識人の台湾人意識	丸尾日登美	吉田幸枝
堀 加代子	宋慶齡と宋美齡——戦時救済活動について	堀 加代子	吉田幸枝
高見 春菜	儒教の国教化とその背景	高見 春菜	吉田幸枝
田中 紗子	『四庫全書』編纂にみる清朝の世界観	田中 紗子	吉田幸枝
山村 佳恵	ボル・ボト恐怖政治の原点	山村 佳恵	吉田幸枝
橋野 陽子	画像石にみる生死観	橋野 陽子	吉田幸枝
藤本 幹	国際協定の推移から見るチベット問題	藤本 幹	吉田幸枝
野村 陽子	スルタン・バイバルスの司法改革について	野村 陽子	吉田幸枝
田村 佳恵	ボル・ボト恐怖政治の原点	田村 佳恵	吉田幸枝
高見 春菜	儒教の国教化とその背景	高見 春菜	吉田幸枝
平 顕子	殷代の宗教——特に王権との関わりについて	平 顕子	吉田幸枝
杉山 由花	中国と日本における菊文化について	杉山 由花	吉田幸枝
瀬戸口友紀	徐文長とその時代——芸術家としての評価	瀬戸口友紀	吉田幸枝
杉本 有里	価の背景をめぐって——	杉本 有里	吉田幸枝
杉浦 めぐみ	の変移について——	杉浦 めぐみ	吉田幸枝
杉浦 直子	南宋の裁判事例から見る女性の地位	杉浦 直子	吉田幸枝
石黒 千恵	宋商人と日本	石黒 千恵	吉田幸枝
坂田 裕子	『抱朴子』の自叙について	坂田 裕子	吉田幸枝
菅原 葛洪	『抱朴子』の自叙について	菅原 葛洪	吉田幸枝
木場 千晶	タイにおける華僑社会の形成と同化について	木場 千晶	吉田幸枝
小閑 円	カーリミー商人と諸王朝の関係——マムルーク朝・ラスール朝を中心に——	小閑 円	吉田幸枝

史 窓

平木 亨依	東方 早苗	ペストの流行と中世末期のヨーロッパ 連邦を救った大統領—エイブラハム・リンカーン
藤川 愛	吉川千登勢	一八四八年、ヴィーンに於る民衆の革命 ビスマルクの政治戦略—中央党と社会主義者との闘争—
松木 志保	村上由美子	一八四六年、穀物法廃止と地主・貴族層 オーストリア・ハンガリー二重帝国の成立とチコ民族
矢野 裕子	山崎紀代美	フイレンツェ史におけるメディチ家 —そのバトロネージについて—
渡辺 詔子	ユナイテッド・アイリッシュメンとアイルランドのナショナリズム	ユナイテッド・アイリッシュメンとアイルランドのナショナリズム
渡辺 鴎子	ラダイツ運動の歴史的性格	ラダイツ運動の歴史的性格
渡辺 円	縫製する女たち—19世紀・ロンドンのスラムから	縫製する女たち—19世紀・ロンドンのスラムから

1999年度 大学院文学研究科

特論 史学専攻博士前期（修士）課程講義題目	瀧浪教授 稲本教授 中山教授	出土文字資料による中国古代・中世史の諸問題 中国社会と「士」階層 元代史の研究 ※中国古代・中世の歴史資料 ※中国近世史史料学—『史料』の歴史— ※イスラーム時代の西アジア ※バルカン、ユーラシアの東西文化交流 ※中世フランス研究 ※近世フランスの俗人領主階級 ※近世ドイツ・ギムナジウムの社会史 （※は学部共通）
古代都市論 日本中世史特論	坂口助教授 杉井講師 柴田教授 山路講師 下坂講師	※近世大地主制の成立と展開（Ⅱ） ※日本における移民史研究の成果と課題 ※京都に於ける日本文化 日本古文書学特論
対外観の変遷 ※自然観の変容 ※京都に於ける日本文化 日本古文書学特論		
特論 史学専攻博士後期課程講義題目	瀧浪教授 稲本教授 中山教授	東洋史演習Ⅰ 東洋史演習Ⅱ 東洋史演習Ⅲ 東洋史演習Ⅳ 西洋史演習Ⅰ 西洋史演習Ⅱ 西洋史演習Ⅲ 西洋史演習Ⅳ
特論 女帝論	坂口助教授 永田教授 柴田教授 中山教授	日本史演習Ⅰ 日本史演習Ⅱ 日本史演習Ⅲ 日本史演習Ⅳ 日本史演習Ⅴ 日本史演習Ⅵ 日本史演習Ⅶ 日本史演習Ⅷ
特論 地主制の土地所有をめぐる諸問題	坂口助教授 植松教授 谷口助教授 藤繩教授 古賀教授 常松教授	東洋史演習Ⅰ 東洋史演習Ⅱ 東洋史演習Ⅲ 東洋史演習Ⅳ 西洋史演習Ⅰ 西洋史演習Ⅱ 西洋史演習Ⅲ 西洋史演習Ⅳ

二〇〇〇年度 大学院修士論文題目	植松教授 檜上教授 谷口助教授 藤繩教授 古賀教授 常松教授	東洋史特殊研究Ⅱ 明清時代の国家と社会 イスラーム時代シリア史研究 西洋古代史の諸問題 近代イギリスの王室と民衆 アメリカにおける大衆社会の成立
研究発表会・その他	小島 優子 大西 香衣 河野あすか 森永 恭代 河野あすか 森永 恭代	一八世紀初頭オスマン帝国とチューリッヒ時代 （以上西洋史） 明末福建における鄭孝胥の思想と行動 清代後期長江三峡における民間航道整備事業の実態—李本忠の事業に見る官と民の関係 （以上東洋史）
七月一日 研究発表会・その他	小島 優子 大西 香衣 河野あすか 森永 恭代 河野あすか 森永 恭代	一八世紀初頭オスマン帝国とチューリッヒ時代 （以上西洋史） 明末福建における鄭孝胥の思想と行動 清代後期長江三峡における民間航道整備事業の実態—李本忠の事業に見る官と民の関係 （以上東洋史）
七月一日 修士論文研究発表会	M2 大西 香衣 M2 河野あすか M2 河野あすか M2 小島 優子	（以上西洋史） （以上東洋史） （以上東洋史） （以上東洋史）
復辟派・鄭孝胥の思想とその行動 —清末から満洲国建国以前を中心として—	M2 大西 香衣 M2 河野あすか M2 河野あすか M2 小島 優子	（以上西洋史） （以上東洋史） （以上東洋史） （以上東洋史）
清末後期長江中流域における航道整備事業とその背景・客商・李本忠の活動を中心として—	M2 森永 恭代 M2 小島 優子	（以上東洋史） （以上東洋史）

九月二二日 研究発表会

近世ロシアの僭称者—偽ツアーリの登場とその背景—

M 1 大西 紀子

フランス革命下の国民化政策

M 1 貴傳名曉子

文久の修陵事業について

M 1 藤江美由紀

近世後期奈良町における救済

M 1 佐竹 朋子

慶長遣欧使節の目的—伊達と幕府の考え方の相違を中心にして

M 1 水谷 友紀

近世後期奈良町における救済

M 1 藤江美由紀

慶長遣欧使節の目的—伊達と幕府の考え方の相違を中心にして

M 1 南 留子

壬午・甲申事変期における日本の朝鮮政策

M 1 武藤佳央

軍部大臣現役武官制—大正二年の改正とその影響—

M 1 山中 裕子

管仲の法思想について—法家思想の発展と関連して—

M 1 馬場理惠子

北魏時代における仏教の発展について—太武帝廢仏事件を中心にして

M 1 村松 賢子

京都女子大学大学院文学研究科史学専攻博士後期課程開設記念研究発表会

M 1 村松 賢子

近江湖岸村落の形態—近世菅浦村を中心にして

D 2 岸 妙子

幕末期高松藩砂糖生産地域における生産構造—大内郡引田村を事例として—

D 1 宇佐美尚穂

明治一八年度における国権論の諸相—政治小説『佳人之奇遇』にみる—

D 2 高井多佳子

一月一七日

修士論文中間発表会
一一月二〇日 明末における月港開放と福建社会

M 2 大西 香衣

満洲国参画につながる鄭孝胥の思想

—清末から満洲国建国以前の活動より—

M 2 河野あすか

清代後期長江三峡における民間航道

整備事業の実態—李本忠の事業に見る官と民の関係—

M 2 森永 恭代

一八世紀初頭オスマン帝国とチュー

リップ時代 M 2 小島 優子

(終了後、「洛匠」にて懇親会)

研究室だより

本年度京都女子大学史学科は創設五〇周年を迎えた、新世紀の幕開けと共に史学科の歴史は世紀後半へと突入します。この記念すべき年の研究室だよりではありますが、まず悲しいお知らせから始めなくではありません。昨春から療養されていた藤繩謙三教授が、一〇月四日に逝去されました。史学科一同、先生の御冥福をお祈りするとともに、本学科に対しても、御尽力に心よりお礼申し上げたいと思っています。現在進行中の全学的な改組にともない、人文准学科におられた竹内亨助教授が四月から史学科所属となられました。したがって、史学科の専任教員は、昨年度と同じく「三名」ということになります。また、今年度も多くのお先生方に非常勤講師として授業を担当していただいております。例年通り、非常勤の先生方との懇親会を、五月二六日に「洛匠」にておこないました。

今年度の新入生は一二九人でした。この学年から順次新カリキュラムへと移行し、セメスター制が採用されます。講義題目にAあるいはBとなるのはセメスター制でおこなわれる授業で、それぞれ年度前半と後半での開講を示しています。一方卒業予定者は一八一名と、近年では例外的に多くの卒業生を送り出することになりました。年度始めの段階で、学部

在籍者数は休学者を含め五八〇名となつております。

大学院は改組されて二年目を迎えました。前期課程は一二名の新入生を迎え計一六名に、後期課程は一名を迎えて計三名となりました。前後期合わせて一九名の大学院生が研究に取り組んでおり、改組を機に移転した大学院生研究室が早くも手狭になりつつあります。また、博士後期課程開設を記念して、一月に特別講演会と博士後期課程の学生による研究発表会がおこなわれました。

本年度も史学科の教員による研究成果の出版が次ぎました。まず藤繩教授が精力を傾けてこられたトウキュディデス『歴史』の邦訳第一巻が京都大学学術出版会から出版されました。そして稻本教授が研究成績の一端を『三重県の歴史』(共著、山川出版社)の中で披露されたのに続き、柴田教授が『江戸武士の日常生活』(講談社)、瀧浪教授が『帝王聖武』(講談社)を上梓されました。

史学科に限らず、本学の教職員や学生にとって見慣れた風景の一つとなつた三島神社が、昨秋突如として姿を消し更地と化しました。また年末には

「むろや」が店をたたみました。半世紀にわたって営業してきたといふことですから、われわれ史学科

とほぼ同じ時を刻んできたことになります。もちろん、以上は馬町界隈で目に付いた移り変わりの一部に過ぎませんし、史学科を取り巻く環境の変化は周囲の景観にとどまるものではありません。京都女子大学史学科の第一世紀後半は、まだ始まつばかりです。

二〇〇〇年度の学会運営に協力して下さった学会委員は次の方々でした。例年通り史学会諸行事企画から運営まで、全般に渡って支えていただきました。ここに氏名を記して感謝の意を表します。
委員長 西洋史三回生 德山 真由
副委員長 日本史二回生 榛田 志穂
会計 西洋史三回生 是澤 綾

書記

西洋史二回生 高橋美すづ
西洋史二回生 高山 薫
西洋史二回生 小谷美記子

編集後記

藤繩謙三先生の御逝去を悼む

昨年のゴーレン・ウイーク明けから療養生活を送られた藤繩謙三先生が、二〇〇〇年一〇月四日午前〇時五八分、永眠されました。享年七〇歳でしたから、先生の早過ぎるご逝去は、同僚として、非平に残念なできごとと言うしかありません。

先生の入院中のご様子では、ずいぶんと体調の良さそうなときもあって、これなら教壇へはともかく、以前の生活への復帰は可能であろうと考えておりましたから、よけいに衝撃的なできごとでした。教員、学生とともに先生のご冥福をお祈り申し上げる次第です。

▲『史窓』第五八号「史学科創設五十年記念特集号」をお届けします。

皆様のご協力により、現職ならびに旧教員の論考一四編、本学卒業生ならびに大学院在学者・修士者による論考一六編を掲載することができ、彙報も含めて三八〇ページ余りにおよぶ大部な論文集となりました。

▲本号企画するにあたり、可能な限り同窓生諸姉の間に執筆のご意向の有無を伺い、ご協力をお願ひ致しました。多くの方々からご寄稿のご返事をいたしましたが、予算枠や締切日、その他の都合で採録しきれぬ部分がありましたこと、お許し願います。あらためてご寄稿くだされば幸いに存じます。

▲一昨年の秋、お元気だった藤繩謙三先生に是非とも原稿をお寄せくださいとお願いしましたところ、「古代ギリシャ史学における戦争の役割」という題目で論文を書きましょうとのご快諾をいただきました。その後、先生は体調を悪くされ、療養生活を送られましたが、昨年一〇月、永眠されました。本書に先生のご論考を頂戴できませんでしたこと、残念でなりません。藤繩先生の死を悼み、次なる『史窓』の編集を進めております。

(坂口)

執筆者紹介

山本 四郎	本学元教授
狩野 直禎	本学名誉教授
永井 康視	本学元教授
瀧浪 貞子	本学教授
柴田 純	本学教授
中山 清	本学教授
坂口 満宏	本学助教授
永田 英正	本学教授
植松 正	本学教授
檀上 寛	本学教授
谷口 淳一	本学助教授
古賀 秀男	本学教授
常松 洋	本学教授
吉住 泰三	本学教授
中村 恭子	本学教授
吉住 京子	本学卒業生
吉住 房子	京都市歴史資料館

中野 昌代	本学大学院研修者
菅澤 庸子	財世界人権問題研究センター専任研究員
岸本 香織	本学大学院研修者
木原 弘美	本学大学院研修者
大原 眞弓	本学大学院修了者
宇佐 美尚穂	本学大学院博士後期課程
上田 純子	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程
松本 郁美	本学大学院研修者
高井 多佳子	本学大学院博士後期課程
上野 有美子	本学大学院研修者
小島 典子	本学大学院研修者
菅沼 愛語	本学大学院修了者
吉野 香	本学大学院研修者
竹村 所	京都女子大学史学史学会
房子	株式会社印刷同朋舎

史
窓
第58号

史学科創設五十周年記念特集号

二〇〇一年二月五日 印刷
二〇〇一年二月一〇日 発行

編集 京都女子大学史学会
発行所 京都女子大学史学研究室
印刷所 京都市東山区今熊野北日吉
町三五

西(昭和)五三一九二二

- USAMI Takaho Sugar Trade of the Takamatsu domain in the Bunka
and Bunsei periods(257)
- UEDA Junko *Nohei*, or the Feudal Soldiers of *Hagi* Domain in the Late
Tokugawa Regime: A Case Study of the Land lord *Ura* 浦(269)
- MATSUMOTO Ikumi *Shinagawa Tadamichi* 品川忠道, the First
Japanese Consul at Shanghai.....(281)
- TAKAI Takako Reading *Kajin no Kigu* 佳人之奇遇: Time Difference
between a Fiction and the Reality(293)
- UENO Yumiko The Politics of Xihan *Wen-di* 文帝 Period(307)
- KOJIMA Noriko *Er-zhu Rong* 爾朱榮 in the Late North-Wei Dynasty.....(317)
- SUGANUMA Aigo Inscription of Kol-Tegin written by *Xuan-Zong* 玄宗
and Diplomatic Relations between Tong Dynasty, Turk and Tibet.....(329)
- YOSHINO Kaori The Organization of *Tuan-lian* 团練 and Gentry in
Gui Prefecture, Guang-Xi Province.....(341)

Historical Documents

- TOKORO Kyoko A Manuscript on the Careers of Empress *Gosakuramachi*
後桜町.....(353)
- TAKEMURA Fusako Letters of *Shojun* 尚順 Addressed to *Kumagai*
Nobuyoshi 熊谷新吉(365)

Miscellaneous(379)

Contents

Foreword: A half Century of the Department of History.....(i)

Articles

- YAMAMOTO Shiro A study of *Ishikawa Jozan* 石川丈山.....(1)
KANO Naosada A Japanese translation of the biography *ZHU-Jun* 朱儁.....(15)
NAGAI Yasumi *One* in Heraclitus(25)
TAKINAMI Sadako The Controversy on the Kampaku's Duties: The
Retired Emperor and Sessyo-Kampaku(37)
SHIBATA Jun Relief system for the Sufferers on the Travel.....(53)
NAKAYAMA Kiyoshi The Situation of Land Owners in the later Edo
and Early Meiji Periods(67)
SAKAGUCHI Mitsuhiro Japanese Association of North America and
Network Relations(83)
NAGATA Hidemasa A New Study on the Two Wooden Documents of
Li Zhong 礼忠 and *Xu Zong* 徐宗.....(97)
UEMATSU Tadashi Relationship between the Management of the Grain
Tax and the Marine Transportation in Zhe-xi 浙西 District in Yuan
元 Period(111)
DANJO Hiroshi The Marine Transport in the Late Yuan Dynasty and
Liu Renben 劉仁本(119)
TANIGUCHI Junichi Leaders of the Aleppines in the Early Twelfth
Century(131)
KOGA Hideo The Queen Caroline Affair: Popular Politics and the Royal
Family(143)
TSUNEMATSU Hiroshi Victorianism and the Middle Class in America.....(159)
NAKAMURA Taizo Migration of the Russia between 18th and 20th
Century(171)
YOSHIZUMI Kyoko The Imperial Family and the Former Imperial
Family(181)
NAKANO Masayo Concerning Confucian Ritual during Tang 唐 Period.....(197)
SUGASAWA Yoko Sense of Surname in the *Shinsenshoujiroku* and the
Immigrants(209)
KISHIMOTO Kaori The Conflict in *Koshibe-Shimo* 越部下 Manor of
Harima Province: A Case Study of Emperor Godaigo's Sanction in
the Third Year of *Genko* 元亨.....(221)
KIHARA Hiromi An Approach to the Religious History of Osaka in
the Medival Age(233)
OHARA Mayumi A Dream of *Bodaisen-Hongan-Shin'en* 菩提山本願信円.....(243)

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

Journal of Historical Studies

SHISŌ

Vol.58

February 2001

*Special Issue : To Commemorate the 50th Anniversary
of the Department of History*

THE ASSOCIATION OF HISTORICAL STUDIES

Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

ISSN 0386-8931